

VII. 社会的活動

1. 社会的活動への取組み

(1) 地域市民を対象とした公開講座

本学は、開学以来、地域市民を対象とした公開講座を実施してきたが、ここ数年は参加者が減少、近隣での様々な無料講座の実施等の影響により、公開講座を休止してきた。しかし、2013年度より、福岡地区教育機関連絡協議会の発足に伴い、地域市民を対象とした公開講座を「学びの駅 TOKAI」という名称で再開した。本講座は、東海大学並びに福岡東海キャンパスの教育的魅力を地域と共有し、地域に根差したキャンパスを目指すことを目的として、新たに開始したものである。2013年度は全9回の講座を行ったが、2014年度は2ヶ月1回と位置づけ全5回の講座を開講した。講師は、実施目的に沿って学園内の教員を活用し、「健康」「食」「教育」「観光」「知的財産」など幅広いテーマで展開した。講座には、幅広い年齢層や職業を有する多くの地域市民の参加があり、特に、「健康」や「食」に関する関心度は高く、再度の実施を希望する多くの声が聞かれた。

なお、2015年度そして2016年度へと、さらなる充実をはかる予定であったが、2015年6月に2017年度からの学生募集停止を受け「学びの駅 TOKAI」は実施を取止め、むなかた大学のまち協議会で行う「むなかた大学のまちゼミナール」として行う公開講座を実施した。

2016年度と2017年度の実施日程、テーマ、講師は以下の通りである。

2016年度・2017年度「むなかた大学のまちゼミナール」実施一覧

実施日時	講座内容・講師
2017年2月25日(土) 13:00-14:00 参加者約20名	「自分でつくる健康運動プログラム」 東海大学福岡短期大学 情報処理学科 講師 岡本 武志
2017年2月25日(土) 14:30-15:30 参加者約10名	「2019年から2021年のゴールデン・スポーツイヤーズを機に」 ～スポーツに親しむまちづくり～ 東海大学福岡短期大学 国際文化学科 准教授 北濱 幹士
2017年12月16日(土) 10:00-11:30 参加者約15名	「観光客数と消費額から見る観光政策」 東海大学福岡短期大学 国際文化学科 講師 柏木 翔
2018年1月27日(土) 13:00-14:30 参加者約15名	「LCCの現状と将来展望」 東海大学福岡短期大学 国際文化学科 教授 藤本 幸男

(2) 観光文化研究所

1) 運営方針

本研究所は、1995年6月、内閣総理大臣の諮問機関である「観光政策審議会」の答申に基づき、かつ地元九州における福岡県経済同友会などの要請に対応する形で1996年4月に設立された。

観光産業が我が国の基幹産業として認識されるようになった昨今、観光への取り組み方も従来とは異なる視点が求められている。本研究所では、21世紀における観光産業のあり方について、その課題を明らかにし、実践的な活動を通じて、観光の健全な発展を図ることを目的としている。

本研究所がある福岡県を含む北部九州は、古来より大陸との交流が密接な所であったが、近年、発展著しい東アジア地域との経済活動・文化交流が盛んになってきた。また観光は地元九州・沖縄でも地域経済を支える重要な産業であり、2011年3月の九州新幹線の全線開通、外国人観光客の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も含めて、福岡の地はますます九州及び東アジアに向けた観光の発信地としてその役割が大きくなるのが今後予想されるところである。

以上の経緯と背景から、九州という立地を活かし、また広く国際社会を見渡しなが、国内外との連携を図りつつ、新しい時代における観光のあり方を研究の目的として本観光文化研究所が開設された次

第である。

2) 活動の基本方針と特色

本研究所では、観光の理念から観光産業に関する様々な実務、また観光において、近年、欠かすことのできないホスピタリティやエコツーリズムといった概念など、観光文化を学際的に捉え、広い視野から研究することにより、現代社会で要請されている「観光文化研究の基礎づくり」をすることが本研究所の第一の目的である。

具体的には、国際化・グローバル化時代に観光の果たしている社会的、経済的な役割を明らかにし、国内外を同時に見据えながら、市場調査を含むフィールドワーク、高度情報社会の基幹システムに成長したインターネット等の ICT 技術の集積、地域の活性化という視点からの地元地域における観光の取り組みとの連携や協力を視野に入れた活動等を展開することが本研究所の特色である。

3) 観光文化教育に関する研究

観光文化の教育に関する研究として、以下の活動を実施している。

- カリキュラムの研究
- インターネット等マルチメディアを活用した多角的、多元的教育の研究
- エコツーリズム、地域ツーリズム等に関する研究及び研究会の開催
- 教育評価の測定に関する研究
- 学内外の関連教育機関との提携、交流、人材の発掘や育成

4) 観光文化における関連諸科学との総合研究

観光文化そのものに関する理論研究、及び観光文化と関連する諸科学との学際的な研究として、以下に示す活動を実施している。

- 観光文化の普遍的命題の研究
- 比較文化や海外文化圏地域研究等との共同による観光文化の深化と向上についての研究
- 観光文化の経済・社会への波及効果の研究
- 観光文化の質的・量的環境動向（予測）に関する研究
- 観光文化に関する公開講座や研究会等の開催と講師の派遣
- その他、研究所にふさわしい諸活動

*備考：本研究所は、上記の諸研究の他にも学内外に広く研究テーマを募集していく方針である。特に若手研究者の発掘と育成のための産官学共同による学術論文の募集と、共同研究等の充実を図る。

5) 活動概要

a. 観光文化研究所所報第 21 号の刊行

本研究所の研究雑誌である所報第 21 号（最終号）を発行した。第 21 号は、本研究所員と外部の研究者による研究論文・レポート・エッセイの計 7 編、及び公開講座の講演記録 1 編の計 8 編を掲載した。総頁数 67 ページとなった（掲載原稿は下記の通り）。

○論文・調査報告

- | | |
|--|--------------|
| ・自然災害の観光地に与える影響 地震後の熊本観光の現状と課題 | 宮内 順 |
| ・応援を目的とした旅—プロ野球ファンによる観光行動 | 大方 優子 |
| ・特別講座「宗像学」を実施して | 北濱 幹士 他 2 名 |
| ・北欧への小旅行 ヘルシンキとタリンを訪ねて | 中釜 隆司 |
| ・Visiting the Grand Canyon National Park | Jean L. Ware |
| ・韓国社会の変化による旅行スタイルの変化 韓国人観光客の動向 | 李 昭知 |
| ・観光客数と消費税から見る観光政策 | 柏木 翔 |
| むなかた大学のまちゼミナール公開講座 | |
| ・観光文化研究所を振り返って 22 年間の活動の軌跡 | 神山 高行 |

b. 講師の派遣

宗像市の主催する地域公開講座「ルックルック講座」及び「むなかた協働大学」などに講師の派遣

を行っている。

c. 外部機関との協力、共同研究

本研究所員は、九州経済連合会（観光部会委員）、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（委員）、宗像市総合計画審議会（審議委員）、宗像市郷土文化学習交流館協議会（委員）などの各委員を委嘱され、地域観光・地域経済への協力、助言、共同研究等を行っている。また、本年度（今後 2018 年度まで継続の予定）は、宗像市商工観光課より宗像市観光経済効果調査が本研究所員 2 名に業務委託された。

6) 所員構成

本研究所の所員構成は以下の通りである。

所長	林 大仁	国際文化学科教授
研究所員	神山 高行	国際文化学科教授
研究所員	藤本 幸男	国際文化学科教授
研究所員	北濱 幹士	国際文化学科准教授
研究所員	柏木 翔	国際文化学科講師
研究所員	福田 伸也	学生支援室 職員

2. 国際交流・協力への取組み

(1) 海外研修

1) 韓国短期留学A

該当事項なし

2) ハワイ短期留学

該当事項なし

3) 韓国短期留学B

該当事項なし

4) 中国短期留学

該当事項なし

5) 海外研修航海

該当事項なし

(2) 留学

1) 交換留学

該当事項なし

2) 派遣留学

2017 年度東海大学海外派遣留学制度により、本学から留学した学生はいない。